令和5年度　学校自己評価書（様式）

鈴鹿市立白子小学校

NO.

評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）	評価指標・行動指標	成果・課題	学校関係者評価	今後の改善点
学力向上	1.授業改善 ・全教員による授業公開（指導主事を招聘年4回） ・「めあて」「まとめ」「振り返り」を位置付けた授業スタイルの確立 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして，考えを深め，表現し，適切に評価する授業	・研究授業を行う教員：100% ・学力調査(学期末テスト)・みえスタディ・チェック：全国平均・県平均以上 ・児童アンケート「授業はわかりやすいですか」：90%以上	○研究授業を行う職員100% ○全国学調は、国語は全国県平均以上、算数は全国県平均をわずかに下回る。みえSCは、4，5年：国算は県平均以上、5年理科は県平均をわずかに下回る。	・英語教科で、イントネーション・発音などヒアリングが大事であり、母語を話す支援者を授業に活用された生きた授業に取り組んだと思う。 ・ほぼ平均以上の結果となり、今後に期待したいと思います。	・全ての教員が研究授業を行い、授業を公開することによりお互いに授業力を向上させるので今後も続けていく。 ・学調や三重スタは引き続き事前の対策に取り組んでいく。
	2.基礎学力の向上 ・少人数指導（習熟度・TT）によるきめ細かな指導 ・学習プリント学期毎１人50枚以上 ・学びに向かえる学習環境，学習規律の確立	・算数科少人数指導実施学年（1.2.4.5年生）の算数単元テスト：全国平均以上 ・学習プリント達成児童：90%以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」の作成とそれに基づいた教師アンケート：学期末１回(三部で連携)	●１年生は全国平均を上回ったが、2，4，5年はほぼ全国平均をやや下回っている。 ●学習プリントは、１～３年は86%、４～６年は69.6%。高学年の達成率が低い。 ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケートを実施し、学習環境や学習規律、分かる授業と学習集団づくりに取り組んだ。	・学習プリントをやっていく意味を繰り返し子どもたちに説明し、なんとかやる気を持ってもらえると良い。 ・小学生時代に学習する習慣がついていると、中高生になっても勉強することがつらくないと思うので、家庭・学校が協力して子どもたちが勉強できるように工夫をすることが必要だと思う。 ・学習ボランティアとしてプリントの○付けなど、支援をこれからも協力していきたい。	・学習プリントの達成率はやや落ちても、クラスでのばらつきの幅が小さくなった。基礎的な力になるので、学年の実態に応じて今後も続けていく。
	3.家庭学習の習慣化 ・家庭学習の手引きを作成し、学年×10+10分程度の家庭学習時間の確保	・児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」：90%以上 ・保護者アンケート「お子さんは家庭学習（学年×10+10分程度）の習慣がついていますか」：80%以上	○児童アンケート「宿題をきちんとしていますか」：88.5% ●保護者アンケート「お子さんは家庭学習（学年×10+10分程度）の習慣がついていますか」：63.8%	・児童個人の理解度によって、家庭学習の時間は違ってくると思います。毎日の学習習慣がついていれば、学習時間はあまり気にしなくていいと思います。 ・学習プリントを活用して学習時間を確保できると良い。	・家庭学習は家庭の学習環境も大きく影響しているが、懇談会・学校だより等を通して、家庭学習の大切さを啓発していく。
ＩＣＴの活用	1.ICT機器活用力の向上 ・情報担当を中心に効果的な活用方法の研修	・ICTミニ研修会：年5回以上 ・ICT全体研修会：年1回以上	○ミニ研修会5回実施（見込み含む）。希望者のみに絞って研修し理解を深めた。 ○全体研修会１回実施。各学年の児童の実態に合った実践を共有できた。	・ICTの活用のところで、読書活動も大切となっているが、タブレットパソコンを書籍として活用するのも機器の有効な活用方法として取り組んでいけるとよいのではないか。 ・調べ学習だけではなく、電子書籍としての利用も増えてきている。	・教員も児童も抵抗なく端末が使えるようになっている。ICTサポーターさんの力も大きい。引き続きICTサポーターさんをうまく活用し、学年に応じた使用方法を探り、全職員で共有していく。
	2..ICT機器を活用した授業の推進 ・日常的な活用の推進 ・ICTサポーターの活用	・ICT推進委員会の定例化：年10回以上 ・ICTサポーターとの連携授業：毎学期1回以上	○ICTサポーターとの連携授業４４回実施。教材作成などにも協力していただいた。 ○職員の大半がICT機器の活用に抵抗がなくなったことと、各学年のICT担当を中心に活用方法を広げることで目標は達成されると判断し、今年は推進委員会を実施しなかった。必要な研修については適宜ミニ研修を行うことで対応する。		
	3..家庭学習での活用 ・持ち帰りによる家庭学習での活用	・長期休暇の持ち帰り：100% ・日常的な持ち帰り：4年生以上（毎日），3年生以下週1回以上	○長期休暇の持ち帰り100%。 ○日常的な持ち帰り:4,5,6年生は毎日持ち帰り、2年生は週1持ち帰り、1,3年生は必要に応じて持ち帰らせている。来年は活用の仕方を精査する必要がある。	・多くのお金を投入しているので、より有効に活用していく必要がある。	・研修を積み重ね、さらに効果的な活用ができるよう取り組んでいく。
長欠減少	1人権尊重を基盤に据えた授業実践 ・児童の興味・関心・意欲を大切にして，考えを深め，表現し，適切に評価する授業 ・承認活動の充実と自己肯定感の醸成	・人権アンケート「自分にはいいところがあると思いますか」：90%以上 ・児童アンケート「先生は，あなたの話をよく聞いてくれますか」：90%以上	●人権アンケート「自分にはいいところがあると思いますか」：80.6% ○児童アンケート「先生は，あなたの話をよく聞いてくれますか」：92.5%(2.3%増加)	・もう少し数値があがってほしいです。 ・アンケート項目の「自分にいいところはあると思いますか」のところは大きくくくられているので、今後は具体的に得意なことを聞くなどするとよいのではないか。	・自己肯定感を上げるような取り組みを学年、学級で行う。（日直スピーチ、ほめほめタイム、作文の読み上げ、得意なことを披露する機会をつくるなど）
	2全ての児童が居場所のある学校づくり ・自主性，コミュニケーション力育成を大切にした活動の充実 ・いじめアンケートによる児童の実態把握と早期対応 ・SC，SLSの活用や関係機関との連携	・代表委員会によるあいさつ運動：月１回　集会活動：前後期１回（生指部と連携） ・いじめアンケート年３回 ・児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」：90%以上 ・不登校（傾向）児童の，児童生徒理解・支援シートの作成：１００% ・長期欠席（30日以上）児童数R4年度以下	●児童アンケート「学校に来るのは楽しいですか」：87.3% 年々数値は上がってきている。 ○6年生の不登校傾向（ほっとルーム利用）児童について、児童生徒理解・支援シートを１００%作成できた。 ○不登校傾向にある児童について、特別支援コーディネーターが中心となり、担任、ほっとルーム職員、SLS、スクールカウンセラーと連携して、支援を行うことができた。 ○ほっとルームが開設され、不登校傾向にある児童を中心に、安心して過ごせる居場所づくりをすすめることができている。「ほっとルームがあるから登校できている」という声は、児童や保護者からも出てきている。 ●長期欠席（３０日以上）児童数の増加。 （R4年度末2人→R5年度11月時点で5人）	・コロナが明けて学校行事の制限がなくなってまだ１年なので、楽しい学校行事が増えてくると、学校に来る理由の１つになると思う。 ・ほっとルームの開設うれしく思います。性格もそれぞれで、安心できる居場所は必要です。	・一つひとつの学校行事の内容について、その都度しっかりと職員間で話し合うことを大切にし、児童にとってより実り多い行事となるようにしていく。 ・SC（スクールカウンセラー）やSLS（スクールライフサポーター）との情報共有を今後も密にし、児童や保護者の思いを把握し、早期対応を続けていく。 ・登校渋りや不登校傾向の児童については、SLSによる登校支援を継続するとともに、担任・保護者との連携を大切にする。
地域連携	1.地域に「開かれた学校」の推進 ・地域人材・地域教材を活用したキャリア教育の推進 ・地域ボランティアの活用 ・地域・家庭と連携した防災、防犯、交通安全の取組	・スポーツ出前授業，すずか夢工房等外部人材を活用した出前授業：各学年年１回以上 ・ボランティアによる学習支援や見守り支援等：年200回以上 ・津波避難訓練、引き渡し訓練：年1回 ・交通安全教室：年1回	○観劇やスポーツ出前授業等、各学年年１回以上出前授業を活用することができた。 ○学習ボランティア（　回）、登下校の見守り支援や避難訓練への支援、読み聞かせや図書館整備で200回以上支援いただいている。 ○津波避難訓練、引渡し訓練を5/17に実施。地域ボランティアや警察とも連携して行った。 ○交通安全教室を4年生で5/22に実施した。暑い日となったので、実施時期の変更を検討する必要がある。	・避難訓練等で自治会・支援隊など、地域を巻き込んだ活動は良い取組だと思う。 ・学習ボランティア・読み聞かせボランティアをもっと活用してほしい。 ・白子小地区の文化を子どもたちに伝えるため、墨の進誠堂さん、港の見学等の経験はとてもよいと思う。型紙等も取り入れて、いろいろな体験・経験をさせてほしい。 ・学行事、取組等が行われたのは良かった。 ・自転車での一旦停止はなかなか守られていない。	・今後も避難訓練を自治会や児童支援隊など、地域や保護者の協力を得ながら実施をしていく。 ・生活科や総合学習等で、学習ボランティアや読み聞かせボランティアなど、地域人材をさらに活用できるように進めていく。 ・校区の伝統産業や地域の特色を生かした産業などについて、見学や体験学習で学んでいけるように学習計画に取り入れていく。 ・交通安全学習を全学年５月に行い、自転車の乗り方について啓発していく。また、11月に4年生で実技講習を計画する。
	2.教育活動の公開・情報発信 ・学校行事と授業の公開 ・たより・HPによる情報発信	・授業参観（学校公開デー）：学期１回 ・学年，学校だより発行：年12号以上 ・ホームページ更新：毎日更新，各学年学期3回以上	○一学期（4/21、6/6）、二学期（11/1）の３回実施。三学期は、6年生を送る会を予定 ○学年だよりを毎月発行、学校だより10号（R5,12.11現在）	・学校だよりを協議会会員に配布してもらうのは学校の状況がよく分かり大変良い。 ・学校だよりやHPで学校の取組等を情報発信していただき、学校の様子が文章だけでなく、写真で知ることができ、より理解でき良かったです。	・今後もホームページの更新を定期的に行い、学校の情報を発信していく。 ・学校の情報を文章だけではなく、写真を利用し、見て分かるように工夫していく。

		・保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」:９０%以上	○ホームページは毎日学校の様子を紹介できている。 ●保護者アンケート「学校通信やHP等で知りたいことが伝わっていますか」:88.3%　昨年より数値が大幅に上がったので、今後もHPで学校の情報を随時発信し、情報発信したことを保護者に周知していく必要がある。	・HPの更新など、学校からの発信が保護者の方々にも安心の一材料になっているのはとても良い。出来たら保護者専用のHP（パスワードを入れないと入れない）もあると良いと思う。 ・鼓ヶ浦中学校は学校だよりを回覧で回していますが、小学校も検討だけでもいかがでしょうか。	・ホームページは、全世界とつながっており、パスワードをかけて保護したとしても安心はできない。また、学校の取組の様子を写真でより分かりやすくするためのものなので、個人が特定できるような写真の掲載は学級・学年通信で発信していく。 ・学校だよりは、ホームページで掲載しており、カラーで閲覧することができる。各自治会の回覧数分に限られた学校予算をあてることや、印刷・仕分け作業が負担増になるため、難しいと考える。
特別支援教育	1.個に応じた支援の充実 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした組織的な対応 ・個別の支援計画・個別の指導計画の整備と児童の情報共有 ・外国籍児童の支援体制の充実	・支援会議，ケース会議の実施：必要に応じて ・個別の支援計画・指導計画の充実：前期後期2回更新 ・独自の国際学級設置による取り出し：週10時間 ・学年だより等の翻訳文書を発行	○支援会議とケース会議を必要に応じて実施することができた。 ○個別の支援計画を年度初めに更新し，個別の指導計画を前期後期2回更新することができた。 ○国際学級の週15時間実施することができた。 ○県や市の通訳を利用し、翻訳文書の発行に努めた。	・児童数は減少しているが、支援が必要な児童は増加しているので、組織的な対応が今後も必要である。 ・外国籍児童の国籍も多様であるし、日本語能力もそれぞれちがいがあり、対応は大変であると思う。	・支援が必要な児童について支援会議やケース会議をもち、対応策について協議していく。 ・外国籍児童への日本語指導は、国際教室の他に県の巡回相談員によるオンライン授業も増やしていく。 ・校内全体で多文化共生教育をさらに進めていく必要がある。
	2.特別支援教育の視点にたった教育活動の充実 ・刺激のない落ち着いた学習環境づくり ・見通しを持たせる授業計画	・ユニバーサルデザインの授業づくり研修会：年１回 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケート：学期末１回95%以上（三部で連携）	○特別支援の視点を入れて，とびうお学級の研究授業を実施した。 ●「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートを実施し、刺激のない落ち着いた学習環境づくりや見通しを持たせる授業計画に取り組めた。達成率93%	・障害者差別解消法が４月１日から施行される。障がい者への合理的配慮の提供が義務化されるので、そういう視点にたった取組を進める必要がある。また、保護者にも啓発していけるとよい。	・特別支援教育に関する研修会を1回以上もつ。 ・研修会で学んだことを実践できるように、振り返りを行いながら、ユニバーサルデザインの授業づくりに取り組む。
生徒指導	1.落ち着きのある生活態度 ・重点目標（挨拶・返事、廊下階段歩行、チャイム、トイレの使い方、校内の整頓、無言清掃）の凡事徹底 ・学びに向かえる学習環境，学習規律の確立	・重点目標の振り返り：毎月の三委員会時 ・児童アンケート「進んであいさつをしていますか」90%以上 ・児童アンケート「無言掃除」90%以上 ・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート：学期末１回（三部で連携）	●児童アンケート「進んであいさつをしていますか」:81.3%（児）89.1%（親） ●児童アンケート「無言掃除」:74.9% ○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートを実施し、学びに向かえる学習環境，学習規律の確立に努めた。 ○生活委員会より，あいさツリー週間を設けて，進んであいさつすることの大切さを訴えることができた。	・あいさつは、子親共に年々少しずつ増えています。日頃から親、地域の人が児童に声かけをしていくと良いと思います。 ・あいさつやルールを守ることは、これからの人生の中で大切なことなので、ねばり強くご指導をお願いします。 ・アンケート項目の見直しが必要。無言掃除よりも、「友だちを大切にしていますか」や「友だちと仲良くしていますか」など他人を思いやる項目があってもよいのではないか。	・来年度も、引き続き生活委員会や教職員によるあいさつ運動に取り組んでいく。 ・アンケート項目の見直しを行う。
	２対話を重視し，児童の良さや可能性を認め，共感しながら接する組織的な指導 ・各教職員が，常に自身の取組を振り返る意識を高める	・「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師アンケート：学期末１回（三部で連携）	○「よりよい学習を進めるためのてびき」に基づいた教師の振り返りアンケートを実施し、各教職員が，常に自身の取組の意識を高めた。	・今後も効果的な取組を進めていけるとよい。	・今後も引き続き教職員の意識を高め、児童に寄り添った指導を心掛ける。
	３問題行動の未然防止 ・アンケートや対話による実態把握 ・電話，家庭訪問，懇談会，PTAとの話し合い等による保護者との連携	・代表委員会によるあいさつ運動：月１回 ・集会活動：前後期１回 ・保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:85%以上 ・いじめアンケート年３回 ・週１回以上の情報共有	●保護者アンケート「白子小学校は、お子さんのことを気軽に相談できる学校ですか」:81.9% ○学期ごとにいじめアンケートを実施し，問題を早期に発見し、対応に努めた。 ○生活委員会発足により，週２回あいさつ運動を実施した。 ○代表委員会が学期ごとに児童集会を開き，異学年交流を行った。	・保護者の方々もお仕事等でなかなか相談には行けないのでしょうか。20%近くの方の理由は何かが分かるとよい。	・引き続き、生活委員会による週２回のあいさつ運動を行う。 ・代表委員会による児童集会による道徳心の啓発や異学年交流を行う。 ・来年度も年三回のいじめアンケートを実施し、問題の早期発見・早期対応に努める。 ・保護者との関係を構築するために、適宜電話や家庭訪問等コミュニケーションを図る。
組織的な学校運営と働き方改革	１全教職員による学校運営へ参画 ・人事評価制度を活用した面談 ・三委員会等の活性化 ・風通しのよい職場づくり	・面談：年3回以上 ・三委員長等との意見交換：毎月の三委員会前後 ・コンプライアンス宣言の設定：全教職員100%	○人事評価制度を活用した面談を、1月末で2回実施予定 ○毎月企画委員会を開き、三委員長との意見交換を行うことができた。 ●コンプライアンス宣言を全職員100%達成できたが、職員の交通事故が発生した。	・今後も全教職員で学校運営を進めていけるとよい。	・職員の面談を通して、意見を聞き、職員一人ひとりが力を発揮できるようにしていく。 ・今後もコンプライアンスの研修を定期的に行い、職員のコンプライアンス意識を高め、事故防止に今後も努めていく。
	2時間外労働の削減 ・職員会議提案資料の事前確認と提案の簡潔化 ・クロムブック校内掲示板とホワイトボード連絡黒板の確認と共通取組の遵守 ・定時退校日の設定と出退勤システムによる勤務時間の確認	・一人当たりの月平均時間外労働：30時間以下 ・放課後開催の60分以内の会議：70%以上 ・定時退校日月２回	○12月末までの一人当たりの平均労働時間は28.3時間で、昨年より0.3時間削減できている。また、月45時間以上の延べ人数も昨年の35人から22人へ減少している。 ○放課後開催の60分以内の会議75% ○定時退校日月2回実施し、ほとんどの職員が月2回定時退校をすることができている。	・先生方の働き方を学校内で色々検討し、努力をしてみえることを聞きますが、それも大事ですが、先生の人数をもう少し増やしてほしいと思います。先生方と子どもたちがもっとふれ合う時間を増やしてほしいと思います。（何か問題が起きたときに十分な時間をとって先生と子どもが話し合うためにも）	・教科担任制を進めて、一人ひとりの担当教科を減らして、教材研究の負担を軽減していく。 ・行事の実施方法や内容を見直し、よりよい部分を見極めて精選していく。 ・特定の職員に負担がいかないように、校務分掌を見直し、一人ひとりの過重労働時間が軽減できるように取り組んでいく。